10-2
ホーム
40 大 里 線
開南・寄宮・長嶺・グリーンタウン
100 白 川 線
開南・寄宮・徳洲会病院前
109 大 里 線
開南 寄宮・長嶺・真嘉名・大嶺
18 首 里 駅 線
壺川・国場・那覇インター前・
首里駅

BUS STOP
仲程
平良
第二団地前
南小学校前
仲程入口
安座
おきなわワ
大里城跡
40
637
沖縄バス
SHAR

糸満
Itoman
八重瀬
Yaese
與座原
Oyakebaru
77
南風原
Hierbaru
86
86

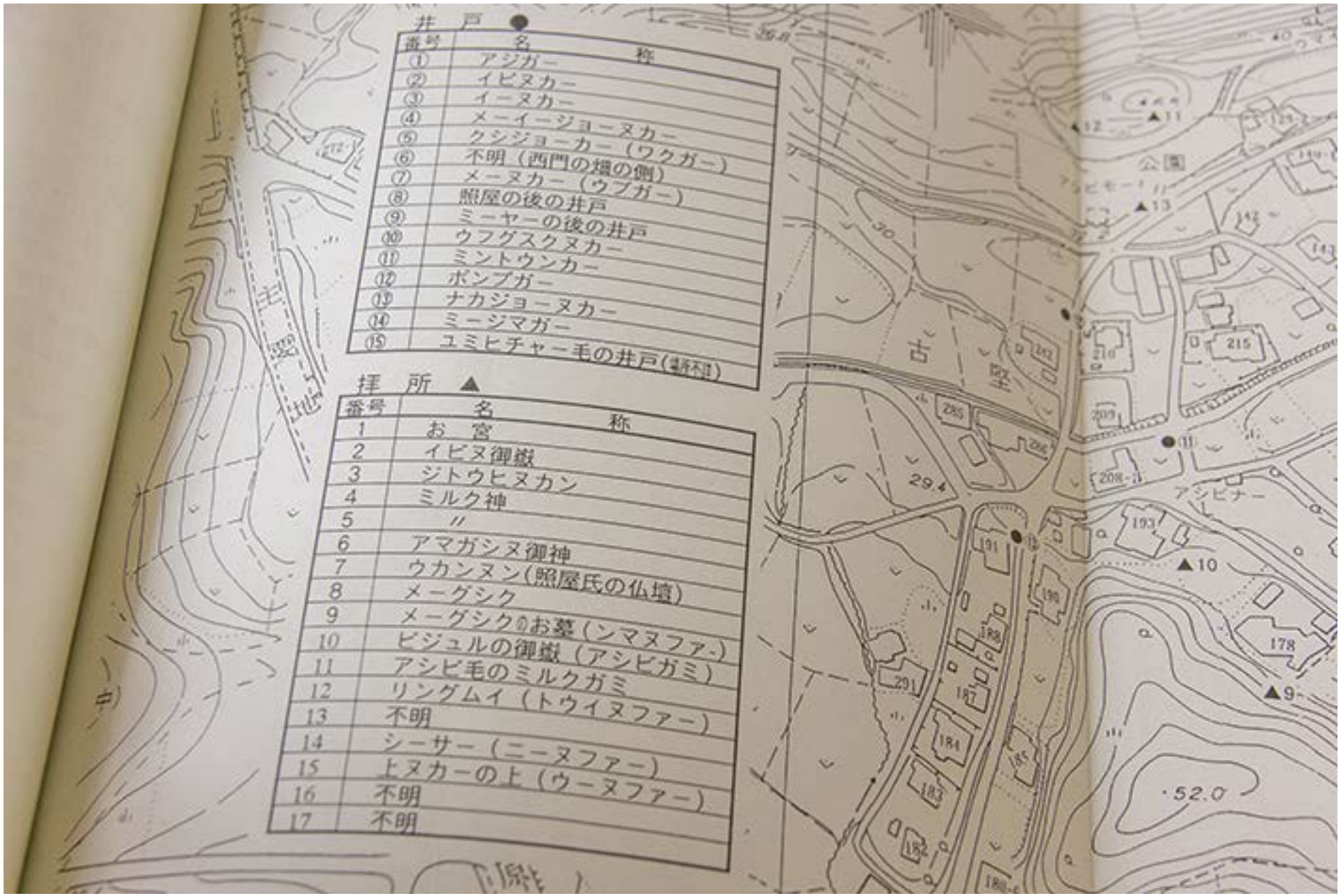
沖縄バス
BUS STOP
平良入口
古堅入口 ↔ 仲程
鈑金
塗装

金魚
B

設

adidas

豊年

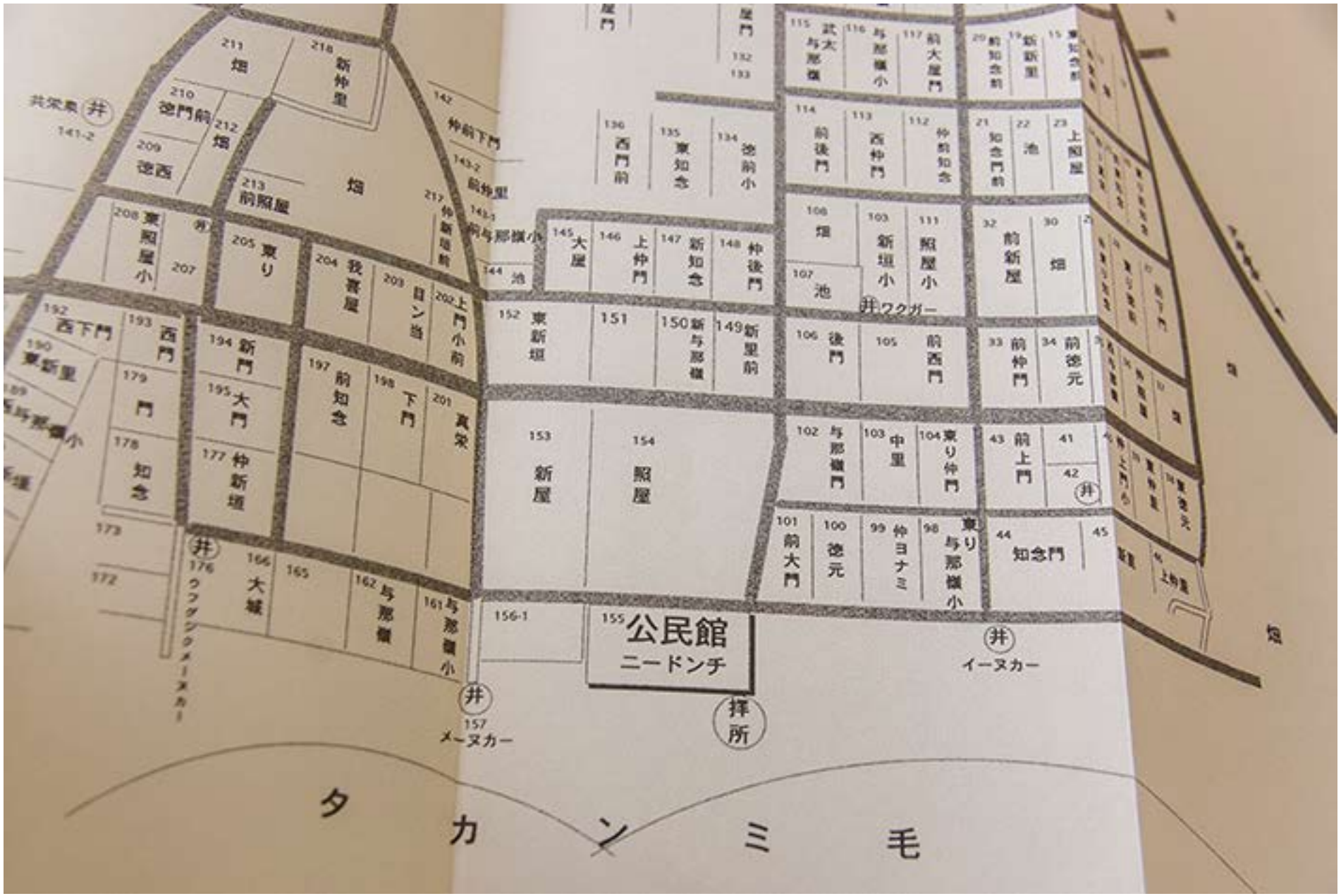


井戸 ●

番号	名称
①	アジガー
②	イビヌカー
③	イーヌカー
④	メーイージョーヌカー
⑤	クシジョーカー（ワクガー）
⑥	不明（西門の畑の側）
⑦	メーヌカー（ウブガー）
⑧	照屋の後の井戸
⑨	ミーヤーの後の井戸
⑩	ウフグスクヌカー
⑪	ミントウンカー
⑫	ボンブガー
⑬	ナカジョーヌカー
⑭	ミージマガー
⑮	ユミヒチャー毛の井戸（場所不明）

拝所 ▲

番号	名称
1	お宮
2	イビヌ御嶽
3	ジトウヒヌカン
4	ミルク神
5	〃
6	アマガシヌ御神
7	ウカンヌン（照屋氏の仏壇）
8	メーグシク
9	メーグシクのお墓（ンマヌファー）
10	ビジュルの御嶽（アシビガミ）
11	アシビ毛のミルクガミ
12	リングムイ（トウイヌファー）
13	不明
14	シーサー（ニーヌファー）
15	上ヌカーの上（ウーヌファー）
16	不明
17	不明


公民館
ニードンチ
拝所
井
メーヌカー
ウフグシクメーヌカー
イーヌカー
ワクガー
タカンミ毛

祝 開
金蓑夢弘振

古堅地区集落地域整備事業

記念誌

沖縄県島尻郡大里村字古堅

2. 古堅のスディチラーアラシー（豊年祭）

1. 名称　　古堅のスディチラーアラシー（豊年祭）
2. 所在地　　沖縄県島尻郡大里村字古堅
3. 時期　　毎年旧の4月1日に行われる
4. 内容

(1) 由来

この行事は元来スディチラーアラシーといわれるが、現在では豊年祭と称される様になっている。

昔は旧4月1日はクルンゲー（衣替え）の日で、人々はこの日から冬服を夏服のスディチラーに着替えていた。スディチラーとは芭蕉布であるが、芭蕉の糸を粗く紡いで織ったいわゆる普段着である。人々は新しく織って作ったスディチラーをその日初めて着、他の人と織り方や染め方、柄などをアラシー（争い）した。それでその日をスディチラーアラシーと称する様になった。

スディチラーアラシーの為に人々は一カ所に集まる様になり、その日1日を話したり、歌い踊ったりして楽しんだ。それが現在の形になったはっきりとした理由はないが、村人が他村の催し物を見物するにおよんで、我が村にも村に見合った芸能をと念じて、首里の赤田のミルクを村に広めるようになったとのことである。しかし、それに関する文献、資料等は無く、あくまで伝承の域にすぎない。首里の赤田から伝わったという理由には、そこで歌われるミーミンメーの曲が赤田首里殿内の曲と同じもので、以前は歌詞も『赤田首里殿内黄金ドゥサガティー』と同様に歌われていた。また当時は首里の御殿、殿内への奉公人が多かったとのことである。しかし、もう一つのハイファーボーに関する由来は全く知られていない。

スディチラーアラシーが豊年祭といわれるようになったんは、ここに登場するミルクが豊年の神ということからである。

(2) 構成

この行事は三つの部分に別れる。第一はミルクが登場し、子供等による踊り。第二は青年による棒術いわゆるハイファーボー。第三が青年等による踊りである。

(3) 組織及び扮装

この行事は集落の青年、子供等を中心に行われる。参加者を各々の役割で分けると次のようである。

③ ミルク一隣保班長の中から一人選ばれ、張り子の面を頭に被り、張り子の腹の形をしたものを
身にかけ衣裳をまとう。衣裳は色あでやかなものだが、着る時には必ず腹が見える様にし、その上
に麻布をはおる。足は高下駄を履いて、手には豊年と書かれた軍配を持ち常にあおいでいる。現
在の衣服は浮服の様なものだが、三年前までは紫色の着物であった。

④ 老人、老婆一隣保班長の中より各一人選ぶ。子供等の見守り役、世話役である。
老人は白いかつらを被り、あごひげをつけ、芭蕉布を着、草鞋を履いて手にはクバの葉で作った扇
を持つ。老婆は白毛混じりのかつらを被り、老人と同様に芭蕉布、草鞋を身につけクバの扇を持つ

⑤ ミーミンメーの踊り手一幼児から小学校低学年の子供。衣服の上から色あざやかなウチカケ
（チャンチャンコの様な単衣の着物）をはおり、頭には豆しぼりの手拭きを巻き、両手にはジンナ
ークを持つ。ジンナークとは約1尺の竹に赤黄白の紙を交互に巻きつけ、先の方を縫りぬき穴あき
銭（現在は5円玉）を入れ、先端は色紙で房を作り、それを振ると銭の音がするようになっている。

⑥ スーディアガリー、ナチジンヌーの踊り手一小学校高学年の子供。女衣裳を着（現在では女子が
演ずる場合が多い）草履を履き、頭には紫紺の布を巻いて腰まで垂らし、扇を持つ。

⑦ ウルクティミーの踊り手一小学校高学年の子供。④と同じ格好をし、四っ竹を持つ。

⑧ ユンタンジャーの踊り手一中学生の子供。衣服の上からウチカケをはおり、一人は小太鼓を持
ち、他の者は三尺程の棒に赤黄白の紙を巻き付けて飾り、その先にピンを下げた物を持つ。

⑨ これら③～⑧の子供等はつい最近まで男子だけだったが、現在では女子も参加する様になって
いる。また人数が少ない為④⑤は同じ人によって行われる場合もある。

⑩ 麻姑及び踊り一青年。白装束に紫紺のたすきを掛け、鉢巻をする。足は黒白縞柄の脚絆を巻きつ
け白足袋を履き、座で出来た六尺棒と三尺棒を準備する。現在は白足袋の代わりに靴を履く。

② 装置

芸を演じる場合は、集落の草分けの照屋家の庭、お宮の前、公民館の庭、アシビナー（集落内の南
端にある小広場）、アシビモー（集落北側にある広場）の五ヶ所である。演じる場合には二本の旗
が立てられる。一本は長さ約二間半の竹の上方に長刀を象ったものを付け、金聲玉振と書いた幟を
付けてある。この旗頭はナジナタ（長刀）と呼ばれている。他の一本は長さは同じで、上方に桥と鍾
馗を乗り豊年と書いた幟を付けてある。これはチョーバン（桥）と呼ばれている。この二本の旗頭
は演ずる場所が移る度に移動する。その際は必ずナジナタが先になり、次が参加者でチョウバンは最
後になる。その理由はナジナタで厄を払い、チョウバンに五穀を入れ豊年にするということである。

(5) 芸能

行事は、照屋家の庭でミーミンメーの踊りで始まる。整列した子供等は、三味線、太鼓によるミーミンメーの曲、歌に合わせ、老人役の指導のもとに、まずジンナークを頭上で叩きながら調子をとり、右に歩き、左に歩き、次に回って、耳をつかみ、『ミーミンメー、シーヤーブ』の囃子詞に合わせて、左右、前後に首を振る。踊りはその動作をくり返す。踊りの間ミルクはその上手で子供等の踊りを見守っている。

次に青年等によって棒術が行われる。この棒術はハイファーボーと呼ばれており、六尺棒を持って、銅鑼の音と『アーハイファー、アーハイファー、アーハイファー、アーハイファー、アーハイファー、アーハイファー』の掛け声に合わせて棒を使う。掛け声の間々に他の人は『ユイユイユイ』と『サーサー』という言葉を入れる。しかしこの掛け声は次第に使われなくなってきつつある。ハイファーボーは青年全員で行なうべきものあるが、そこでは庭が狭い為に二、三人で行なう。

それが済むとナジナタの旗頭を青年が持って先になり、その後からミルク、子供、青年、伴奏者と続き、チョーバンの旗頭を最後に次の演ずる場所お宮前と道行を行なう。尚、道行の際は必ずこの順序で進む。以前は道行の際も踊りながら進んだが現在では歩くだけである。お宮前、公民館の庭、アシビナーでミーミンメーを踊り、最後の場所アシビモーに行く。

そこではまずミーミンメーを演じた後、女装着（現在では女子）によってスーディアガリーを扇を持って踊り、ナチジンヌーを手踊りする。次に四っ竹を持ってウルクティミーを踊る。その後ユンタンジャーを踊るが、それはまず一人が小太鼓（又はバーランクー）を持って先頭に立ち、他は三尺の棒に慈利の代用としての瓶を下げた物を持って踊る。踊り終ると先頭の者だけのこり、小太鼓をたたきながら「トゥークワーセーティチェーミーバイ、サンジュークワーセーアンマーカタムン、サーアッサ」と大声で言って退く。これで子供等の踊りは終り、ミルクはその場でカチャーシーを踊って去って行く。

踊りが済むと青年全員によってハイファーボーが行なわれる。その後、三尺棒、六尺棒を用いて棒の組み手等で景気をつける。その後に青年等によって踊りが行なわれるが、それは公民館で行なわれる。以前はアシビモーでもその一部は催されていた。青年等によって演じられるものは、かぎやで風上り口説、下り口説、ルクチューシン、ンニシリ節、松竹梅などで普通クーダーカーで幕を閉じる。踊りは一時的なもので集落独特のものでなく、また、踊りの種類や数も踊り手の多少によって異なる。

(6) ミーミンメーの歌詞

① フルギンヌシマヤ　クガニドゥルサガティ
　ウリガアカガイネ　ミルクユガフ
　ミーミンメー　シーヤーブ

② アガリアカガリバ　シミナレガイチュン
カシラユティタボリ　ワウヤガナシ
ミーミンメー　シーヤーブ
③ ダンジュトゥユマディル　フルギンヌシマヤ
スリティワカムンヌ　ナラディチュラサ
ミーミンメー　シーヤーブ
④ クンドゥシングワチネ　アシビハジミトティ
ヤニヌシングワチネ　ユクヌアシビ
ミーミンメー　シーヤーブ

[民]

① 古堅の村は　黄金燈籠がさがって
それが輝くと　弥勒世果報
(ミーミンメー　シーヤーブは囃子)
② 東の空が明るくなると　学問を習いに行く
髪を結って下さい　私の父母よ
③ たいそう豊かな　古堅の島は
働く若者の　ならんだ美しさよ
④ 今年の四月に　遊びはじめて
来年の四月には　さらに遊ぼう

3. 特色
大堅村に残っている数少ない民俗芸能で、村内ではこれに類似する芸能はなく古堅独特のものである。ミルクは沖縄本島や八重山など他の地域にもみられるが、ハイファーボーは他地域の棒術と異なり、掛け声に合わせて行なうもので棒術というより棒踊りの感がある。

4. 伝承者（敬称略）
照屋　弘（明治36年生）
上原　健明（明治37年生）
照屋　正義（大正2年生）
照屋　重慈（大正10年生）
収録日　1975年5月28日　※（この原稿は文化課所蔵資料から特別に掲載しました。）

沖縄県文化財調査報告書第112集
「沖縄県の民俗芸能」から掲載した

榮萬古如新
永天地世不易

部落内
最徐行

昭和十八年建立
平成十年三月吉日改修
（一九九八年）

カトリック大堂天会

大聖年記念
2000年12月3日 祝別

農村集落総合管理施設
40m

ところで、古堅集落は、集落全体の神役がないために、集落全体に関わる神行事のすべては、正副区長、書記の3役によって執り行われている。

尚、調査に当っては、公民館を提供して下さったのをはじめ、区長さんや古堅集落のみなさんには物心両面にわたる御協力をいただきました。心からお礼申し上げます。

集落発祥

1　集落発祥の伝承

古堅集落は、現在照屋（ティーラ）門中、与那嶺（ユナンミ）門中、知念（チニン）門中のムートゥヤーが存在している。その中でも、古堅集落の草分けを担ったムートゥヤーは、照屋門中のウフティーラ（あるいは単にティーラ）と呼ばれるムートゥヤーである。その草分けを担ったタチクチ（始祖）がティーラシー（照屋氏）と呼ばれ、ウフティーラには、床の間の右手にその位牌が祀られている。

ティーラシーは西原町字掛保久から古堅に住みついたという。その人は、掛保久集落のトーヤマシー（当山司）の二男であり、継母との仲が悪く、兄（長男）と共に掛保久を去ったという。兄は、大里村字真境名に住みつき、その子孫が真境名集落と、与那原の方にひろがっている。真境名の方が兄（長男）の二男筋であるとされている。与那原の方は、側妻との間にできた子の子孫に長男筋とされている。（正妻より先に側妻のほうに男子ができたという。そして弟のテ

的な存であるが実質的な古堅の開祖にあたるわけではなく、古堅におけ

重箱をもって行く。各家庭では重箱を準備し、お墓参りに行く。

ウタキヌ御願

ユナンミ門中だけにある。他に6月と9月に行なう。

4月1日：ミーミンメエー

行事として誕生したのは割合新しいといわれ、一種の豊作折願として行なわれている。また、この行事に入る2、3日前に、戦前まではスディチラーアラシィというのがあった。スディチラーとは筒袖着物のことで、主婦たちが芭蕉布で家族の夏用の着物を作って競ったそうである。ミーミンメエーの日から衣替えをし、バサージン（芭蕉衣）に着がえた。その日は公民館の上壇に区長（戦前はカシラグヮー）がウブクを準備して供えた。村の祭りで門中とは直接関係ないがティーラ門中は集落の草わけということで余興なども披露する。

ミーミンメエーの行列は昼がら行なわれ、出発時の先頭はナジナタ、帰りはチョウバンがくる。行列の順序は

①ティーラ：ミーミンメエー、棒術、スーリアガリー

②イビヌウタキ：ミーミンメエー

③公民館のナー　：ミーミンメエー

ーとは筒袖着物のことで、[illegible]

ミーミンメエーの日から衣替えをし、バサージン（芭蕉衣）に着がえた。その日は公民館の[illegible]

壇に区長（戦前はカシラグヮー）がウブクを準備して供えた。村の祭りで門中とは直接関係[illegible]

ないがティーラ門中は集落の草わけということで余興なども披露する。

ミーミンメエーの行列は昼から行なわれ、出発時の先頭はナジナタ、帰りはチョウバンが[illegible]

る。行列の順序は

①ティーラ：ミーミンメエー、棒術、スーリアガリー

②イビヌウタキ：ミーミンメエー

③公民館のナー　：ミーミンメエー

④アシビナー　：ミーミンメエー

⑤アシビモー　：その日の余興全部を披露する。

⑥ウマイー　ババ⑤に同じ

⑦青年会主催のシバイグァーをする（村全体で）

ミーミンメエーには男だけが参加し、特に棒術はハイファイボーというものがあり、戦前は中城御殿にも招待を受けるほどの優れた棒術であった。次に余興を紹介すると次のようなものがある。

ミーミンメエー：小学校4年～6年までの男子はジンナークを持ち、赤田すん殿内の歌に合せて踊る（図を参照）

スーリアガリ　：同じく小学校4年～6年までの男子が扇をもって行なう。

①ティーラ：ミーミンメエー、棒術、スーリアガリ

②イビヌウタキ：ミーミンメエー

③公民館のナー　：ミーミンメエー

④アシビナー　：ミーミンメエー

⑤アシビモー　：その日の余興全部を披露する。

⑥ウマイー　パパ⑤に同じ

⑦青年会主催のシバイグァーをする（村全体で）

ミーミンメエーには男だけが参加し、特に棒術はハイファイボーというものがあり、殿内に中城御殿にも招待を受けるほどの優れた棒術であった。次に余興を紹介すると次のようなものがある。

ミーミンメエー：小学校4年～6年までの男子はジンナークを持ち、赤田すん殿内の歌に合せて踊る（図を参照）

スーリアガリ　：同じく小学校4年～6年までの男子が扇をもって行なう。

ウルクティミィー：小学校4年～6年の男子

ナキジンヌー　：中学圭の男子

クーダーカー　：青　年

六　忠　臣：別名　ヤマトンチュグァーともいわれている。

5 ウル
6 ユンタンジャ
7、巻の者は三尺程の棒に赤黄白の紙を巻き付けて飾り、その先にピンを下げた物を持つ。
8 これら③～⑥の子供等はつい最近まで男子だけだったが、現在では女子も参加する様になって
いる。また人数が少ない為④⑤は同じ人によって行われる場合もある。
9 棒南及び踊り一青年。白装束に紫紺のたすきを掛け、鉢巻をする。足は黒白縞模の脚絆を巻きつ
け白足袋を履き、樫で出来た六尺棒と三尺棒を準備する。現在は白足袋の代わりに靴を履く。

(4) 設備

芸を演じる場合は、集落の草分けの照屋家の庭、お宮の前、公民館の庭、アシビナー（集落内の南
西部にある小広場）、アシビモー（集落北側にある広場）の五ヶ所である。演じる場合には二本の旗
頭が立てられる。一本は長さ約二間半の竹の上方に長刀を象ったものを付け、金聲玉振と書いた幟を
付けてある。この旗頭はナジナタ（長刀）と呼ばれている。他の一本は長さは同じで、上方に枡と鎌
一丁を象り豊年と書いた幟を付けてある。これはチョーパン（枡）と呼ばれている。この二本の旗頭
は演ずる場所が移る度に移動する。その際は必ずナジナタが先になり、次が参加者でチョウパンは最
後になる。その理由はナジナタで厄を払い、チョウパンに五穀を入れ豊年にするということである。

豊年祭）

豊年祭と称される様になっている。
ら冬服を夏服のスディチラー
く紡いで織ったいわゆる普段着で
他の人と織り方や染め方、柄など
称する様になった。
り日1日を話したり、歌い踊ったり
く、村人が他村の催し物を見物す
のミルクを村に広めるように
あくまで伝承の城にすぎない。
一の曲が赤田首里殿内の曲と同
に歌われていた。また当地は首
一つのハイファーボーに関する

編するミルクが豊年の神とい

① ミルク一隣保班長の中から一人選ばれ、張り子の面を頭に被り、張り子の腹の形をしたものを身に付け衣裳をまとう。衣裳は色あでやかなものだが、着る時には必ず腹が見える様にし、その上に陣羽織をはおる。足は高下駄を履いて、手には豊年と書かれた軍配を持ち常にあおいでいる。現在の衣服は洋服の様なものだが、三年前までは紫色の着物であった。

② 老人、老婆一隣保班長の中より各一人選ぶ。子供等の見守り役、世話役である。
老人は白いかつらを被り、あごひげをつけ、芭蕉布を着、草鞋を履いて手にはクバの葉で作った扇を持つ。老婆は白毛混じりのかつらを被り、老人と同様に芭蕉布、草鞋を身につけクバの扇を持つ

③ ミーミンメーの踊り手一幼児から小学校低学年の子供。衣服の上から色あざやかなウチカケ（チャンチャンコの様な単衣の着物）をはおり、頭には豆しぼりの手拭きを巻き、両手にはジンナークを持つ。ジンナークとは約1尺の竹に赤黄白の紙を交互に巻きつけ、先の方を縦りぬき穴あき銭（現在は5円玉）を入れ、先端は色紙で房を作り、それを振ると銭の音がするようになっている。

④ スーディアガリー、ナチジンヌーの踊り手一小学校高学年の子供。女衣裳を着（現在では女子が演ずる場合が多い）草履を履き、頭には紫紺の布を巻いて腰まで垂らし、扇を持つ。

⑤ ウルクティミーの踊り手一小学校高学年の子供。④と同じ格好をし、四っ竹を持つ。

⑥ ユンタンジャーの踊り手一中学生の子供。衣服の上からウチカケをはおり、一人は小太鼓を持ち、他の者は三尺程の棒に赤黄白の紙を巻き付けて飾り、その先にピンを下げた物を持つ。

※ これら③～⑥の子供等はつい最近まで男子だけだったが、現在では女子も参加する様になっている。また人数が少ないため④⑤は同じ人によって行われる場合もある。

⑦ 棒術及び踊り一青年。白装束に紫紺のたすきを掛け、鉢巻をする。足は黒白縦縞の脚絆を巻きつけ白足袋を履き、樫で出来た六尺棒と三尺棒を準備する。現在は白足袋の代わりに靴を履く。

(4) 準備

ラシー（豊年祭）

年祭）

るが、現在では豊年祭と称される様になっている。
人々はこの日から冬服を夏服のスディチラー
が、芭蕉の糸を粗く紡いで織ったいわゆる普段着で
その日初めて着、他の人と織り方や染め方、柄など
チラーアラシーと称する様になった。
まる様になり、その日1日を話したり、歌い踊ったり
とした理由はないが、村人が他村の催し物を見物す
念じて、首里の赤田のミルクを村に広めるように
献、資料等は無く、あくまで伝承の域にすぎない。
歌われるミーミンメーの曲が赤田首里殿内の曲と同
サガティー』と同様に歌われていた。また当地は首
ある。しかし、もう一つのハイファーボーに関する

なったんは、ここに登場するミルクが豊年の神とい

① ミルク一隣保班長の中から一人選ばれ、張り子の面を頭に被り、張り子の腹の形をしたものを身に付け衣裳をまとう。衣裳は色あでやかなものだが、着る時には必ず腹が見える様にし、その上に陣羽織をはおる。足は高下駄を履いて、手には豊年と書かれた軍配を持ち常にあおいでいる。現在の衣服は洋服の様なものだが、三年前までは紫色の着物であった。

② 老人、老婆一隣保班長の中より各一人選ぶ。子供等の見守り役、世話役である。
老人は白いかつらを被り、あごひげをつけ、芭蕉布を着、草鞋を履いて手にはクバの葉で作った扇を持つ。老婆は白毛混じりのかつらを被り、老人と同様に芭蕉布、草鞋を身につけクバの扇を持つ

③ ミーミンメーの踊り手一幼児から小学校低学年の子供。衣服の上から色あざやかなウチカケ（チャンチャンコの様な単衣の着物）をはおり、頭には豆しぼりの手拭きを巻き、両手にはジンナークを持つ。ジンナークとは約1尺の竹に赤黄白の紙を交互に巻きつけ、先の方を縫りぬき穴あき銭（現在は5円玉）を入れ、先端は色紙で房を作り、それを振ると銭の音がするようになっている。

④ スーディアガリー、ナチジンヌーの踊り手一小学校高学年の子供。女衣裳を着（現在では女子が演ずる場合が多い）草履を履き、頭には紫紺の布を巻いて腰まで垂らし、扇を持つ。

⑤ ウルクティミーの踊り手一小学校高学年の子供。④と同じ格好をし、四っ竹を持つ。

⑥ ユンタンジャーの踊り手一中学生の子供。衣服の上からウチカケをはおり、一人は小太鼓を持ち、他の者は三尺程の棒に赤黄白の紙を巻き付けて飾り、その先にピンを下げた物を持つ。

※ これら③～⑥の子供等はつい最近まで男子だけだったが、現在では女子も参加する様になっている。また人数が少ないため④⑤は同じ人によって行われる場合もある。

⑦ 神番及び踊り一青年。白装束に紫紺のたすきを掛け、鉢巻をする。足は黒白縞柄の脚絆を巻きつけ白足袋を履き、樫で出来た六尺棒と三尺棒を準備する。現在は白足袋の代わりに靴を履く。

(4) 設備

芸を演じる場合は、集落の草分けの照屋家の庭、お宮の前、公民館の庭、アシビナー（集落内の南

演じる場合には二本の旗

④ ヤニヌシンノ　シーヤーブ
ミーミンメー

[訳]

① 古堅の村は　黄金燈篭がさがって
それが輝くと　弥勒世果報
(ミーミンメー　シーヤーブは囃子)

② 東の空が明るくなると　学問を習いに行く
髪を結って下さい　私の父母よ

③ たいそう豊かな　古堅の島は
揃う若者の　ならんだ美しさよ

④ 今年の四月に　遊びはじめて
来年の四月には　さらに遊ぼう

1. 名称　古堅のスディ
2. 所在地　沖縄県島尻郡大里村字古堅
3. 時期　毎年旧の4月1日に行われる
4. 内容

（1）由来

この行事は元来スディチラーアラシーといわれるが、現在では豊年祭と称される様になっている。

昔は旧4月1日はクルンゲー（衣替え）の日で、人々はこの日から冬服を夏服のスディチラーに着替えていた。スディチラーとは芭蕉布であるが、芭蕉の糸を粗く紡いで織ったいわゆる普段着である。人々は新しく織って作ったスディチラーをその日初めて着、他の人と織り方や染め方、解けをアラシー（争い）した。それでその日をスディチラーアラシーと称する様になった。

スディチラーアラシーの為に人々は一カ所に集まる様になり、その日1日を話したり、歌い踊ったりして楽しんだ。それが現在の形になったはっきりとした理由はないが、村人が他村の催し物を見物するにおよんで、我が村にも村に見合った芸能をと念じて、首里の赤田のミルクを村に広めるようになったとのことである。しかし、それに関する文献、資料等は無く、あくまで伝承の域にすぎない。首里の赤田から伝わったという理由には、そこで歌われるミーミンメーの曲が赤田首里殿内の曲と同じもので、以前は歌詞も『赤田首里殿内黄金ドゥサガティー』と同様に歌われていた。また当地方は首里の御殿、殿内への奉公人が多かったとのことである。しかし、もう一つのハイファーボーに関する由来は全く知られていない。

スディチラーアラシーが豊年祭といわれるようになったんは、ここに登場するミルクが豊年の神ということからである。

（2）構成

部落内
最徐行
adidas

豊年

鹿児島に手紙が持ちこまれ
花嫁様や
南と男ちゃりば
質屋に質入こだ
鹿児島女ぬ誠ゆる

豊年

豊年

金拳会振

豊年

豊年

豊
年

総合管理施

古堅区農

子供に

金蓮寺の踊

金華山祭

豊
年

古堅区農村集落総合管理施設

豊年
Orion

沖縄
BUS STOP
仲程
仲程入口
南小学校前
第二団地前
平良
大里産業